

# THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



## WEEKLY

なごや  
ちくさ

顕字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ  
承認 1982年 8月24日  
例会日 火曜日 12:30  
例会場 愛知厚生年金会館  
事務局 TEL763-5110 FAX763-5121  
会長 水野賀績  
幹事 小山雅弘  
会報委員長 長門保明

No. 7

## 友達になろう BE A FRIEND

1994～95年度 RI会長 ビル・H・ハンドレー

### きょうの例会 第584回 平成6年8月30日(火)

講演 "United Nations Children Fund"  
㈱日本ユニセフ協会 関西事務所代表  
根津 三郎氏 (紹介 成田君)

### 先週の記録 第583回 平成6年8月23日(火)晴

### ガバナー公式訪問

- ◇ "それでこそロータリー"
- ◇ ビジター紹介 7名
- ◇ 出席報告
 

会員	69名	出席	57名
出席率	82.61%		
前回	8月9日(修正出席率)	98.55%	
- ◇ ニコボックス
 

名古屋南RC 中村 守人君 いつもメーカーアップさせていただいております。

秋山 茂則君 ガバナーを迎えてニコニコ総笑顔

加藤 大豊君 愛知わかしゃち国体夏季大会まで後11日。今日愛知県選手団の結成式を終えて来ました。223名の選手団の団長の指名を受け愛知県民685万のスポーツの代表として責任重大です。総合優勝目指し頑張ります。ご声援下さい。

水野 民也君 蜂谷ガバナーをお迎えして。8月30日TV愛知にて「日本の未来を考える」と題して梅原猛、海部俊樹、服部友二(元大相撲)、森(フィールズ賞)さんらと共に水野が対談したものが放映されます。

西村 禎二君 鈴木理之さん、吉田節美さん、水野民也さん、菊池さん、菅原さん何かと有難うございました。盆にて皆様大変御無沙汰致しました。

舍人 経昭君 蜂谷ガバナーをお迎えして。お

盆がおわりました。ガンバリました。

渡辺 辰夫君 蜂谷ガバナーをお迎えして。12時間断水という初めての体験で毎日がキャンプのような生活、水の大切さをしみじみ感じました。皆さん水を大切にしましょう。

足立 一成君、堀江 宏輝君、今枝 秀夫君、今西 功一君、石黒 正則君、釜谷 健一君、菊池 昭元君、木全 昭二君、小林 明君、小杉 啓彰君、小山 雅弘君、黒野 貞夫君、黒須 一夫君、三輪 康君、三好 親君、宮尾 紘司君、水野 賀績君、永井 正義君、中山 信夫君、成田 良治君、西野 秀樹君、岡島 常男君、奥村登喜朗君、大口 弘和君、太田 茂君、尾関 武弘君、鷲谷 龍男君、佐久間良治君、佐野 貢君、笹野 義春君、鈴木 理之君、竹内 眞三君、津牧 孝臣君、上野 保君、和田 正敏君、吉田 敬岳君、吉田 節美君 蜂谷ガバナーをお迎えして。浅井 誠寿君 夫人誕生日祝い。

田部井良和君 本日もたくさんご協力いただきました。

### ◇ 小山幹事報告

1. 本日例会終了後、クラブアSEMBリーを開催いたしますので、理事役員、各委員長は百合の間にお集まり下さい。
2. 次回例会終了後、理事役員会を開催いたしますので理事役員の方はお残り下さい。
3. 10/29～10/30に開催される地区大会の出欠席をまだ出されてない方は、至急事務局まで提出して下さい。
4. 東京東村山RCよりバナーを送って頂きました。7/12にみえた目時君とのバナー交換となりますのでご披露致します。

### ◇ 津牧孝臣君挨拶

先般私の父の死去に当たり、暑い中御会葬を賜り、誠に有難うございます。おかげをもちまして通夜、葬儀等滞りなく終了致し、父親もさぞかし喜んでいらっしゃると思います。本当に有難うございました。

#### ◇水野（賀）会長挨拶

今日は、ガバナー公式訪問の日で、蜂谷弘道ガバナー、大谷和雄分区分代理、森武保地区幹事をお迎えしての例会であります。

11:30から会長、副会長、幹事、会長エレクト、副幹事が出席して、ガバナーから種々と指導をいただきましたが、今更ながら、自分の勉強不足を痛感しました。

最近、「気功」とか「気」が、静かなブームになっており、マスコミでもときどき、取り上げられており、中でも「高塚光」氏は、超能力者としてスーパースターであります。彼は、広告代理店勤務の平凡なサラリーマンであったが、平成元年に心臓破裂で危篤の母を右掌で蘇生させたことで大変有名になりました。

「自分の超能力を金銭の道具にたくない」という信念を持っており、一円の報酬も得ることなく、訪れる人を診たということですが、その数は5年間で27,000人に及ぶということであり、政界、財界の著名人も数多いといわれております。

先日、高塚光氏がTVを通して視聴者に「気」を送り、その「気」を受けた多数の人の病が治癒したのを放映しておりました。

現代の物理学や医学等の近代科学をもってしても、解明出来ない分野があるのは、確かであると思います。

蜂谷ガバナーは、住居が近くにあり、兄弟クラブの和合クラブの会員でありますので、会員諸兄も、歴代ガバナーの中で最も親近感を持っておられると思います。

蜂谷ガバナーと親しく話をさせていただいたのは始めてですが、やさしさの内に、大変な信念とあふれる情熱を感じました。高塚光氏の「気」ではありませんが、ガバナーから「気」というか「power」をもらった様な気持ちであります。皆さんもガバナーから、直接「気」を受け取っていただきたいと思います。

#### ◇蜂谷ガバナー挨拶

“山崎の禪院妙喜庵にある茶室「待庵」の話”



今日は、ビル・ハントレーR.I.会長の指示を受けて参りました。30分の予定でお話をさせて頂きますので、どうぞ、宜しくお願ひ致します。

さて、今年の国際協議会は、3月にアメリカのアナハイムという町で開催されました。世界中から506人のガバナー予定者と、200人を越

えるR.I.役員やリーダーの皆様が各々奥様連れでヒルトンホテルに集まり、総勢千数百名が一堂に会しました。

皆様、ご承知の通りガバナーノミニーがガバナーエレクトになる為の勉強の場でもありまして、8日間の充実した毎日でありました。

大食堂の円卓で、朝食を終えますと、朝8時半から夕方6時まで会議、分科会の連続です。夜は夜で、懇親会が続き、部屋に戻るのには、毎晩10時過ぎというハードなスケジュールでした。

こう申しますと、国際協議会って本当に大変なんだなぁと、お思いかと存じますが、それが、全く違うのです。とても楽しく、明るく、そして、充実した8日間でした。

日本で体験してきたロータリーと何か違っているのです。それは、ミーティングの根底にある“暖かみ”のお陰のように思いました。英語があまり解らない私でも、外国のノミニーご夫妻達と円卓を囲んで食事をする時、何の違和感も感じませんでした。ただただ、彼等の楽しい暖かみを感じました。

初対面の方とは、名刺を交換し、小さなお土産を交換し、握手し、ご婦人とは軽く抱擁を交します。私より英語のできない妻が円卓の楽しい会話に加わりやや長い食事にも飽きることがありませんでした。

好意に満ちた笑いと会話の楽しい一時、その中で私の心の中にグッと来るものがありました。

「こんなに明るく、善意に満ちたガバナーに指導されるロータリークラブは幸福だな。」と感じたのです。

ああそうだ、これがポール・ハリスが求めたロータリーだ、と初めて感じたのでした。

この底抜けに明るく善意に満ちた人々。確かにそこには日本人の私もフェロシップを感じるのです。好意を感じるのです。その内に「真心を尽くさなければ」という気分に自然になってきました。

人のためにそして社会のために大いに尽くすんだという気持ちを身をもって感じました。

そう日本のロータリーから受ける気品のある紳士的な態度、奉仕の理想等を歌った例会、どこか紳士の襟を脱ぎ去る事が出来ませんね。

然し、この外国の淑女紳士たちは私に思わず大声を出して驚かせたり、思わず吹き出して笑わせたりさせるのです。人間的ですね。裸の人間の善意そこからフェロシップは生まれるのです。

よろしい。この1年間、第2760地区ロータリーアンをこの様に思いきり明るく朗らかに、好意に満ちた方向に私が先頭になって進もう、と思ったのです。

そこからフェロシップが生まれる。そこから奉仕の真心が生まれる。

大会第2日目会長エレクトのビル・ハントレーは演説をされ、そしてテーマを発表されました。

皆様、ビル・ハントレーの今年のテーマをご存じですか。そうです。“BE A FRIEND”です。

私は、今日早速、それを実行する為に友達

になる為にこのクラブを訪れたのであります。

そしてその時、ビル・ハントレー会長は、

「1945年ロータリー40年記念大会の時、ポール・ハリスは、ある人から質問を受けました。

「ロータリーは何もかもうまくいっていますね。」と質問を受けたのです。

「何もかもうまくいっている？もしそうなら、神様は我々が最後の日を迎えようとしていると憐れむでしょう。ありがたいことに、何もかも思わしくありません。ロータリーのどこをとっても、改善の余地のない所はありません。私は、ロータリーの開拓時代が始まったばかりだと考えたいのです。ロータリーは、開拓者であり続けなければなりません。さもなければ進歩に取り残されてしまうでしょう。」と答えました。」

1945年といえば、ポール・ハリスは1947年1月29日逝去されたのですから逝去される僅か1年半足らず前のお言葉です。私は、ポール・ハリスがロータリアンに残した遺言の一つだと思えます。

私達ロータリアンはポール・ハリスの云われた如く開拓者であり続けようと思えます。

このクラブも会長さんのリーダーシップの下クラブの皆様結束して頂いて若き開拓者として奉仕に邁進して頂きたいと願います。

1年に1度しか、貴クラブをご訪問出来ませんので、私にとっては大切な時間です。本日は、私の思っている心の話をさせて頂きます。

天正10年6月2日、突如、織田信長が京都本能寺において明智光秀に倒されました。そして、6月13日、その光秀も秀吉の手によって亡びてしまいました。

世は正に、秀吉の手に移りました。つい先頃まで、秀吉は、信長の配下の一武将に過ぎませんでした。利久は、筑州と呼び捨てにしたこともあるくらい親しい間柄です。それがいつの間にか信長の地位に座っています。

それまでは、秀吉は人当たりの良い親しみやすく、物わがりの良い武将でした。しかし、権勢の座に座るや否や不意に別の貌を見せ始めました。泣く子も黙る信長の貌を秀吉も見せ始めたのです。

津田宗及は、その秀吉に心から随順しているように見えました。光秀と親しかった宗及です。しかし、その宗及は明月の夜、一句を吟じて秀吉を風刺しました。

“我なりと まんずる月の 今宵かな”

まんすとは、満月の満であり、慢心の慢でもあります。宗及は、この句によって秀吉に対する自分の心中を、境の者たちに見せたかったのかもしれませんが。

その時、利久は、山崎の禪院妙喜庵に茶室の建築の命を秀吉より受けました。

茶室を秀吉の為に建てる事は、実に気骨のいる仕事でした。如何なる茶室が筑州にふさわしいものか。今、日の出の勢いの秀吉にどんな茶室がふさわしいか。秀吉は派手好みでありました。きらびやかな物が好きでした。が、それは佗茶の世界から遥かに遠いものでありました。

(いっその事、小さな庵に)

当時の茶室は、殆どが四畳半でありました。利久は、思いきって二畳に縮めようと決意しました。客を招いて茶をたてる。その茶室が二畳では余にも狭く、非常に大胆な改革に思われました。利久は、二畳以外の茶室は、造るまいと心に決めました。

信長の跡を継いだその秀吉の変貌。

(さればこそ、日本一の小さな茶室をわしは造る。)

利久の胸の中には、床の間も炉の位置も、ありありと二畳の茶室が目に見えかけました。しかし、何としても決めかねている問題があったのです。それは、入り口の大きさでした。六畳と四畳半の茶室なら入り口の大きさは同じでよいが、四畳半の入り口と二畳の入り口は同じであってはなりません。均衡が破れるからです。と言って幅を狭くすることもできません。

その時、妻のおりきが、燭台に明りを灯しにきました。いつの間にか、部屋は薄暗くなっていました。机にもたれ黙々と考えあぐねていた宗易に

「遅くなりました。只今戻りました。」

と、利久は初めて、おりきがサンチョ聖堂に行っていたことに気が付きました。

「何ぞ珍しい話でも聞いてきたか？」

おりきが聖堂から帰ると、利久はいつもここで聞いてきた話に耳を傾けるのです。

「はい、今日のお話は、私には身に沁みましてございます。」

「どんな話じゃ？」

「はい、狭き門より入れ。と言うお話でございました。」

「何!?!狭き門？」

意外に興を示す利久の語気に驚きながら「天国へ人が入る為には、狭き門より入らねばならぬと伺いました。狭き門より入る為には、総ての持ち物を捨てなければなりません。身分という持ち物、財産という持ち物、傲慢という持ち物、美形や学問という持ち物、など持っては入れない狭き門をくぐらねば天国には入れぬと承りました。それらの荷物は天国では何の役にも立ちません。そればかりか、かえって邪魔になる荷物だそうです。」

「なる程のう。それで？」

「天国に入るためには、只信仰を抱いたわが身ひとつで入らねばなりません。しかも、へりくだった思いをもって頭を低く下げ、私には誇るべき荷物は持っておりませぬ。と言う者のみが天国に入るのだと申されました。」

「ふーん。」

利久は何一つ持たぬ人間が頭を低くして門をくぐる姿を胸に描きました。突如、利久の顔に喜びの色がみなぎり、

「なる程そうであったか。茶の湯は心の世界じゃ。奢り高ぶる者は茶室には入れぬ。」

利久は膝を打ちました。

「おりき、その入り口にちと立って見い。」

利久は襖を指しました。

「はい、この様にてございますか。」

おりきは素直に、襖をあけて廊下に立ちました。  
 「うん、そうじゃ。そして頭を下げて見い。」  
 「これでよろしゅうございますか。」  
 「もっと下げるのじゃ。」  
 「このようにでございますか。」  
 「うむ。」利久は文箱を開け、さらさらと紙の上に筆を走らせました。おりきの下げた頭の上は壁でよいと利久は思いました。  
 慎ましく頭を下げているおりきの姿に、小男の秀吉が頭を下げている姿が重なりました。  
 「よい。」と利久が言葉をかけると、おりきが静かに廊下に座りました。利久の目が光ったと思うと  
 「おりき、そのまま膝をにじって部屋に入っ  
 て見い。」  
 「この様にてでございますか。」

おりきは両膝をにじらせて部屋の中へ入りました。

「おりき、出来た、出来たぞ。」

新しい紙に鋭い線を走らせて二畳の茶室の図を描きました。

「茶室に入る者は大名と言えど、天下人と言えど、一様にへりくだらなければならない。先ず茶室の前に座って茶室に入る心を整え、そして、膝をにじって入る。この心がなければ真の茶の湯は成り立たない。」と利久は思い、深い感動が溢れました。

荒壁を用いた二畳の茶室「待庵」は、国宝であり、侘びそのものを空間に醸し出しています。小さな空間に、亭主は、客を敬い、客は亭主に和し、和敬静寂、一期一会思いを探ります。待庵は、この様な歴史を秘めているのです。

10年後、大徳寺“金毛閣”の件で、利久は秀吉に切腹を命じられてこの世を去ります。

将棋の格言に“王飛接すべからず”とありますが、日本一の茶道の宗匠と天下の権力者とは、並び立つ事は出来ませんでした。

天下の権力を握り、天下の富を集め、天にそびゆる五層八階の天主閣を誇る。難攻不落の名城を造しても、豊臣家は僅か20年で亡び去りました。

一方、切腹を命ぜられた利久の養子嗣小庵は、一期一会の思いを、和敬静寂の心を探り精進致しました。

500年後の今日でも、その子孫は、日本の心、侘び茶の道の宗家として国民敬愛を集めているのです。やはり人間は、心を大切にしなければ、その家は栄えません。

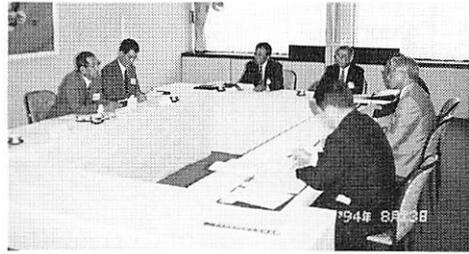
ところで先程、“狭き門より入れ”のお話をしましたが、ロータリーの例会場の入り口は広いです。

しかし、私達ロータリアンは狭き門をくぐる気持ちで総ての持ち物を捨てねばなりません。

身分という持ち物、財産という持ち物、傲慢という持ち物、美形や学問という持ち物、年齢という持ち物を捨て、頭を低くし、へりくだった心で例会場に入り、真のフェロシップを作らなければなりません。

## 会長・幹事懇談会

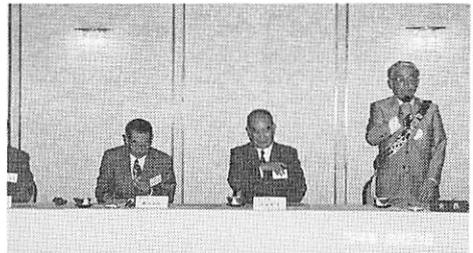
11:30～12:25 橋の閣



例会前に、ガバナー・分区代理・地区幹事  
 会長・副会長・会長エレクト・正副幹事による懇談会。

## クラブアセンブリー

13:30～15:30 百合の閣



例会終了後、理事役員、各委員長によるクラブアセンブリーが開催され時間が延長されるのでは無いかと思う程活発な討論が繰り広げられました。

## 会長杯取切戦優勝祝賀会

(8/23(火)於：松楓閣)

前年度ゴルフ会会長取切戦は、7/28(木)南山カントリーにて熱戦が繰り広げられ、黒須会長の時にも優勝され今回で2度目の、中山信夫君が見事栄冠を手に入れました。



中山君は“私は皆様同様南山は苦手で、とても優勝等考えていなかったのですが、夏には強く今年の暑さが成績となりました。今回はキャディーバックを頂いたので、何かの折に中味を頂けたらと思っております。”と冗談まじりに話されました。

### ◇例会変更のお知らせ

名古屋昭和RC 9/5(月)I.D.M.の為、9/6(火)  
 八事八勝館にて18時より

### ◇次回例会(9月6日)

友愛の日(立食)